

# 照葉樹林だより

ISSN1880-8794

てるはの森の会 会報 第37号  
2014年3月20日



朝の光 3月下旬、綾南川河畔の高木にからみついたティカカズラが朝の光を受けて木を縁取るように輝いていました。  
(撮影 坂元守雄)

## 特集

### 綾の森の写真をめぐって

坂元 守雄 ……4-5p



「綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会」……2p  
を開催しました



綾の森に関わるようになって ……6p



「第6回 森林をめぐる伝統知と  
文化に関する国際会議」実施レポート ……3p



上野 登 代表 死去のご報告 ……7p

事務局だより ……8p

発行:てるはの森の会(綾の照葉樹林プロジェクト事務局) 〒880-0014宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号  
TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289 「綾の照葉樹林プロジェクト」は、日本最大級の面積を誇る綾の照葉樹林の  
保護・復元を目指す、官民学協働のプロジェクトです。

E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp ホームページ: <http://www.teruhanomori.com> (フェイスブックも情報発信しています!)

# 「綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会」

## を開催しました

事務局 知覧圭介

平成26年1月28日(火)19時から綾町高年者研修センターにて「平成25年度綾の照葉樹林プロジェクト(以下、綾プロ)事業説明会」を開催しました。

綾プロが始まって9年目を迎えた今回のテーマは、「人とつながる綾の森林(もり)」でした。綾の皆さんに綾の森をもっと身近に感じてもらい、綾の森の歴史について学んでもらえるよう企画しました。小学生から高齢者まで幅広い年代の65名の参加がありました。

まず、小此木宏明氏(日本自然保護協会)が、今年1年間に実施した綾プロ各5者の事業報告をまとめて行いました。写真を有効に使い、非常に分かり易くコンパクトな発表でした。ボランティア間伐やふれあい調査等の活動に参加したことのある人は、自身が参加した活動の説明があると喜んでいる表情が見られました。

次に、濱田辰広氏(宮崎森林管理署)が、綾の国有林と生活の歴史と題し、明治時代までの綾地域の森林管理、明治から平成までの国有林の森林管理、明治から昭和の森林の関わり(作業風景)、森林と生活の歴史を、年表や当時の写真を交えながら説明しました。初めて聞いた内容で大変勉強になりました。参加者の方々は、木を伐り、運んでいる昔の綾での生活や仕事をしている写真がプロジェクターに映し出されると、指をさし、驚きの声を上げていました。

その後、河野耕三氏(綾町照葉樹林文化推進専門監)が、綾の森の植生や山の見所、植林の歴史の説明の後、里山での生活を中心に、明治から昭和の綾の人々の生活や文化を、写真を使用し紹介しました。低地の照葉樹林から高地のブナ林まで自然林が連続してみられる綾の森は世界的に非常に珍しい植生であることや、美しいツツジが見られるスポットなどを教えてくださいました。

また、小学生の時に多古羅地区で住んでいた黒木健一氏、中武正臣氏が、昭和中期の写真を見せながら、須木小学校綾南分校でのエピソードや森での暮らしの話をしてくださいました。当時の学校では、先生とは友達のように仲良く遊んでいたそうです。めったに聞くことの無い貴重なお話を聞くことができました。当時多古羅地区に住んでいた方で多古羅会を作り、2年に1度集まっているそうです。

最後に、参加者を5グループに分け、ワークショップ形式で「ユネスコエコパークになって、綾にお客さんが来られた時、経験を生かして自分に何ができるか」についての自由討論を行いました。各グループで、出た意見をスケッチブックにまとめ、発表しました。今できることとしては、お客様には地元の山菜や生き物が採れる場所の紹介等があり、将来は、子供たちに綾の良さや食文化を伝える自然学校を作りたいとの意欲的な意見がありました。一方、綾プロ説明会でそれぞれ発表した話の内容とワークショップのつながりが無いとの指摘もありました。

「事業説明会」とは堅苦しいイメージを持っていましたが、実際はそうではなく、綾町の森の歴史、綾の景観スポットや綾特有の森林植生、また多古羅地区の貴重なお話、ユネスコエコパークについての綾の皆さんの意見を見ることができたので、大変勉強になりました。  
(宮崎市・ちらんけいすけ)



「多古羅会」のお二人が、須木小学校綾南分校でのエピソードを話されました。



ワークショップでは昔の自然体験を語る方多くいました。

# 「第6回 森林をめぐる伝統知と文化に関する国際会議」 実施レポート

宮崎大学 農学部 森林緑地環境科学科 光田 靖

2013年11月7日、てるはの森の宿において「第6回 森林をめぐる伝統知と文化に関する国際会議」が開催されました。また、エクスカーションとして前日の6日には伝統工芸の工房見学が行われ、会議翌日の8日には川中自然公園で現地見学が行われました。研究報告会には韓国、中国、フィリピン、マレーシア、インドネシアからの参加者を含めて34名の出席があり、前田穰綾町長、岩本俊孝宮崎大学副学長のご挨拶に引き続き、12件の研究発表がありました。

現在、アジア地域では急速な経済発展と共に多くの森林が失われています。森林が失われるということは、資源としての森林、生物多様性の源泉である森林が失われるだけでなく、森林に密着した地域独自の文化が失われることにほかなりません。森林に関する伝統的な知識・文化は決して過去のものではなく、これから森林を保全・再生して行く上でどのように森林と接するのが良いのかを示す重要な道しるべとなります。こうした森林に関する伝統的な知識・文化が失われてゆく危機的な現状に対して、第6回目にあたる本会議では「アジア地域における地域住民参加による森林伝統知の保存」と題し、いかに森林伝統知を保存するために地域住民参加が重要であるかを中心とした議論が展開されました。

開催国である日本・綾町を代表して、3名の方に招待講演を行っていただきました。まず、河野耕三先生に綾町の照葉樹林について生態学的な説明と、綾町の伝統的な森林利用およびその歴史について紹介がありました。続いて、綾手づくりほんものセンターの梶山剛氏からセンターの紹介と、綾町における有機農業への取り組みについて説明がありました。最後にてるはの森の会より寺原捷夫氏から会の取り組みについて紹介がありました。綾町の自然、歴史また住民参加の様々な取り組みは、海外からの参加者にとって非常に興味深いものであったようです。また、海外からの報告では韓国の伝統的な農村景観とその文化的背景が解説され、そのような農村景観が急速に失われていることが報告されました。その他の国々でも同様に森林に関する伝統的な知識や文化が失われている実態が報告されました。

今回の国際会議をとおして、森林伝統知の保護が急務であると確認すると共に、綾町における様々な取り組みは森林再生、地域振興そして文化の保存が一体となった世界でも先進的な素晴らしい取り組みであることが再認識されました。  
(宮崎市・みつだやすし)



参加者と集合写真

# 綾の森の写真をめぐって

会員 坂元守雄

綾の森を撮影するようになってから20年が過ぎました。初めは照葉樹の森が広がる険しい山の形状や深い渓谷や森の中の巨木の佇まいなどが珍しく、それらをカメラまかせに撮影していました。

ある年の5月初旬、綾の森を訪ねたとき、県道から眺める大吊橋近辺の照葉樹の森が、全山黄金色と言えるほどに輝いている光景に初めて出会い、シイの花がこれほどまでに山を染めて光り輝くことに言葉を失うほど驚きました。その頃から、森をよく知ること、森をよく見ることを心がけるようになりました、新しい森の表情を探し求めるようになりました。

それから長い年月が経ちました。これまで綾の森に通ううちに、森はさまざまな姿を見させてくれて、そのたびに新鮮な感動を与えてくれました。それでもまだ、わたしには森はよくわかりませんし、まだまだ探しえない森の姿が多いと思いながら、綾の森を見つめ写真を撮り続けています。

綾の森は、四季の変化こそありませんが、3月から5月にかけては、照葉樹の若葉やシイの花などが山や谷を華やかに彩り、その情景は落葉樹の森の新緑の色彩や秋景色に決して劣らないと思い、わたしは愛着をもって綾の森を見つめ森の表情を追い求めています。

綾の森は綾北川、綾南川の両河川に沿う急峻な崖に広がる森です。綾の森にカメラを向けると必ずと言ってよいほど谷の存在が意識されます。とくに近景の被写体にカメラを向けた場合、谷の明るい光が背景に入ってきて、被写体が暗くなったり写真の奥行きが失われたりして写真にならないことがあります。綾の渓谷はそれ自体すばらしい被写体ですが、撮影者泣かせの渓谷もあります。

[写真1]は、大吊橋下の急峻な崖の照葉樹の若葉を朝の日差しが華やかに輝かせている景色を撮った

ものです。落葉樹林の秋景色に似ていますが、春の若葉の色は生き生きとして新鮮でした。しかし、このような情景も瞬間的な情景で、日差しの動きにつれて刻々と変わっていきます。同じ形、同じ色彩、同じ情景を二度見ることは難しい



写真1

ことです。当然、写真も同じ情景を二度撮ることは極めて困難です。

[写真2]は、高木のイチイガシが朝の日差しを真っ先に受けて暗い斜面の中で1本だけ光り輝いた情景です。当然これも瞬間的な情景ですが、太陽と森との間に、太古からこのような神秘的な交歓が行っていたことを想像すると、人知の及ばない森の深遠さを感じさせられます。

照葉樹が光を受けたとき、

照葉樹のなか



写真2

ではイチイガシの葉が一番光ります。なぜイチイガシが一番光るのか今もわかりません。イチイガシこそ照葉樹のなかで神秘的な木なのかもしれません。

[写真3]は深い谷の斜面に生えた高木です。光の少ない斜面では樹木は厳しい生存競争に晒され、枝をいっぱい伸ばして光を捉えようとします。谷の厳しい環境のなかで枝を長く伸ばして日差しを占有しようとす

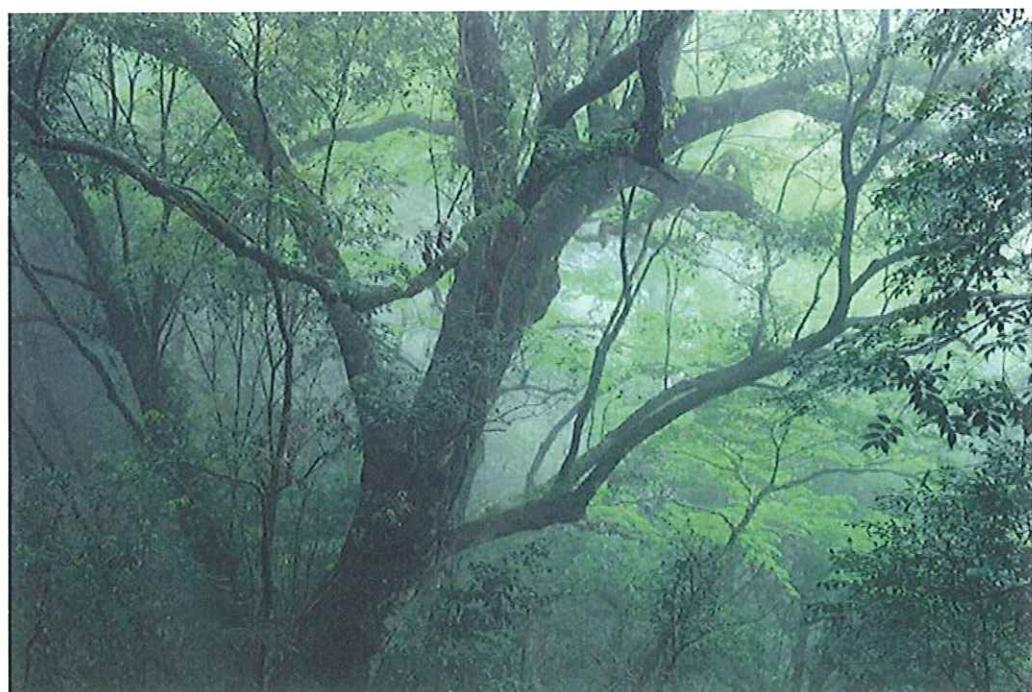


写真3

る高木の姿は、  
谷に生える高木  
の特徴のひとつ  
で森の木の悲  
壮な生命力を  
感じさせます。

これからも深  
遠な森の表情  
を探し求めて写  
真を撮っていき  
たいと思ってい  
ます。

(さかもともりお・宮崎市)

## 綾の森に関わるようになって

綾ユネスコ エコパーク推進室 平田 令子

綾町に勤めてから2か月半が過ぎようとしている頃、宮崎大学と和歌山大学のコウモリ調査に同行する機会がありました。ちょうどそのころは、役場内は綾照葉樹林マラソンの準備で、みな走り回っているときでした。コウモリ調査は日中ではなく夜の調査なので、となかば言い訳をしながら、もちろんみなさん快く送り出してくれましたので、夜の川中自然公園まで一人車を飛ばしました。

コウモリ調査は10月16日～19日まで行われました。私が参加したのはそのうちの3日間です。連日のマラソン大会の準備の疲れのせいか、夜の山に向かって一人車を走らせることにも特段怖さを感じません。迎えてくれた宮崎大学の院生の方の後ろについていきながら、捕獲現場まで向かいました。

月光が夜の森に差し込み、しんと冷え込む中の調査は、役場のデスクワークからの解放感と森林セラピー効果でしょうか、日中の疲れも癒され、久しぶりのリフレッシュ感を得るものでした。調査期間中、4種類の森林性コウモリが捕獲されました。コウモリは私たちと同じ哺乳類です。間近に見るコウモリには、哺乳類的なかわいさがありました。

コウモリ調査も終わり、こまごまとしたたくさん仕事に追われ、綾の森を眼前にしながらもなかなか外に出ることができず悶々とする日々を過ごしている中、その埋め合わせをするかのように、生物基礎調査<sup>(※)</sup>のとりまとめの仕事が待っていました。コケや地衣類、キノコに魚、草本、昆虫、モモンガ、鳥など、綾の生き物の生息状況が写真付きで報告されます。これらの多くは、一人で森に入っても絶対に気が付かないようなものばかりです。これらの報告書は今後綾町にとって大きな知的財産となる、と尤もらしいことを書くべきかも

しませんが、私にとっては、森に入るのと同じように未知のものに触れ、好奇心を満足させてくれるものでした。

綾の森と関わるようになってもう一つ強く感じたことがあります。それは、つい最近まで、綾の森と人との距離はとても近かった、ということです。森と人との関係が希薄になった分、戻ってくる自然もあるでしょうが、どうやら失われてしまう自然もあるようです。優柔不断な私にはどちらが大切とは決められそうにありません。どちらの自然も大切に残していく、では欲張りでしょうか。

(宮崎市・ひらたりょうこ)

(※)生物基礎調査

平成24、25年度にかけて、綾ユネスコ エコパーク全域を対象に綾生物多様性協議会の依頼で行われた調査で、15調査項目にわたり行われた。



(写真) 捕獲されたノレンコウモリ



# 上野 登 代表 死去のご報告

事務局 下村ゆかり

てはの森の会の代表である上野登が平成26年2月2日に死去致しました。87歳でした。晩年は体調を崩し入院することも多くなりましたが、生前から宣言していた通り、人生締めくくり3部作の下巻を脱稿した後に肺炎で息を引き取りました。気骨のある芯が通ったその人生は、最後の葬儀に至っても、無宗教そして香典の辞退として現れていました。今頃はきっと、若かりし頃から愛用したキスリングと登山靴で、ヒマラヤの山々を駆け回っていることでしょう。

今後の新体制につきましては、改めてご報告いたします。

(宮崎市・しもむらゆかり)

## 【略歴】

- 1926年 福岡県生まれ  
1950年 九州大学経済学部卒業  
1968年 宮崎県山岳連盟会長  
(~84年辞任)  
1973年 宮崎大学教育学部教授  
1984年 「土呂久・松尾等の鉛毒被害者を  
守る会」代表(~92年辞任)  
1992年 宮崎大学教育学部定年退職  
宮崎大学名誉教授  
1997年 「アジア砒素ネットワーク  
(A A N)」代表(~2012年3月辞任)  
2002年 「綾の森を世界遺産にする会」  
代表(~2009年辞任)  
2005年 「てはの森の会」代表(~2014年)



本県市民運動をけん引した行動派学者  
**うえの  
上野  
登さん**

14年2月2日 87歳

## 【受賞歴】

- 2013年2月3日 第12回「沼田真賞」  
日本自然保護協会  
2013年3月20日「M R T環境賞大賞」  
M R T宮崎放送  
2013年11月6日「宮崎県文化賞  
文化功労部門」宮崎県

宮崎日日新聞2014年2月27日

## 【著書】

- 『自作農維持創設資金に関する研究』県農業会議、1960  
『経済地理学への道標』大明堂、1968  
『地誌学の原点』大明堂、1972  
『現代人のための風土論』大明堂、1975  
『人類史の原風土』大明堂、1985  
『続・人類史の原風土』大明堂、1992  
『世界システムの経済地理』大明堂、1996  
『変貌する世界像』大明堂、2000  
『再生・照葉樹林回廊』鉛脈社、2004  
『土呂久からアジアへ』鉛脈社、2006  
『照葉樹林って何だろう?』鉛脈社、2010  
『世界史の地理的構造』八朔社、2012

## 【共著】

- 『台風災害の理論と実態』(II・III 沿岸漁業の構造と台風災害)、  
日本学術振興会、1956  
『鹿児島の農業』(V 山間水害地帯における農民的経営の諸問題  
四、五)、鹿児島県、1957  
『日向木炭経済史』(後編 日向木炭の展開構造)、  
宮崎県木炭協会、1965  
『過疎の実証的研究』(七・II 過疎問題についての「内なる論理」  
からする考察)、法政大学出版会、1976  
『高齢化の現状と将来展望』(第6章・1 都城市高齢者の統計的  
考察)、総合開発研究機構、1985  
『照葉樹林文化論の現代的展開』北海道大学図書刊行会、2001  
『サステナビリティと経営学』ミネルヴア書房、2009

## 【てはの森の会 受賞歴】

- 2012年 4月25日「みどりの日・自然環境功労者環境大臣表彰」環境大臣  
2013年 3月3日 第12回「生涯学習賞共生賞」京都府亀岡市  
2013年10月29日 第3回「生物多様性日本アワード優秀賞」(公財)イオン環境財団

## ◎重要なお知らせ◎

てるはの森の会は平成26年度より、「一般社団法人」になります。

この度、平成26年度より「一般社団法人 てるはの森の会」を設立いたします。法人設立の経緯では、生前から上野の合意のもと進めておりました。新代表には、綾町の照葉樹林文化推進専門監としてご尽力された河野耕三氏が就任いたします。新体制の詳細は別紙にてご報告いたします。会員の皆様におかれましては、これまでと変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 事務局だより

### ◆てるはの森の会 関連行事

#### \*終了した行事\*

- 1月 9日(木) 木製遊具の導入事業検討委員会  
11日(土) 上畠ふれあいウォークモニターツアー  
14日(火) 綾町生涯学習講座  
てるはの森の会 定例会  
15日(水) 生物多様性調査事業意見交換会  
21日(火) 対馬市視察対応  
27日(月) 生物多様性事業町民ワークショップ  
28日(火) 第9回連絡調整会議  
第19回連携会議  
綾プロ事業説明会  
30、31日 JICA視察対応  
2月 6日(木) 綾中学校照葉樹林環境教育  
12日(水) 垂道地区ふれあい調査  
14日(金) 綾町生涯学習講座  
生物多様性事業役場職員ワークショップ  
17日(月) 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業 報告会  
てるはの森の会定例会  
21日(金) 第10回連絡調整会議  
22日(土) 第14回間伐ボランティア作業  
24日(月) 綾プロ有識者との意見交換会  
25日(火) 木製遊具の導入事業検討委員会  
26日(水) 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業検討委員会  
3月 4日(火) てるはの森の会定例会  
9日(日) げんだぼの森 学習会＆補植  
11日(火) 綾町生涯学習講座  
14日(金) てるはの森の会定例会  
18日(火) 第11回連絡調整会議

#### \*今後の予定\*

- (予告なく変更になる場合があります、ご了承ください。)  
3月 29日(土) 垂道ふれあい調査  
4月 24日(木) 第1回連絡調整会議

### 会員募集中!

「てるはの森の会」では、綾の照葉樹林プロジェクトにご協力いただける会員を募集しています。  
会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を4回お届けします。  
プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

### ◆「私の好きな“照葉の森”」写真作品募集!!

当会が平成26年度に年4回発行する会報誌の表紙写真に掲載する、照葉樹林の自然を題材にした写真作品を募集します。

テーマ : 「綾および宮崎県内の照葉樹林」

入賞特典 : ①会報誌に掲載され全国に配布される

②綾町内で買い物や食事できる各種商品券進呈

審査 : 照葉樹林だより編集委員会(審査委員長:坂元守雄)

締め切り : 2014年5月13日(火) 当日消印有効

※詳しくは、応募用紙をご確認ください!!

#### (応募用紙設置場所)

- ・綾町観光案内所、綾ふれあい館
- ・綾町役場パンフレット置き場
- ・綾川荘、てるはの森の宿、合宿センター
- ・てるはの森の会ホームページ

### ◆「げんだぼの森」で学習会＆補植をしました!

3月9日(日)、げんだぼの森で学習会と補植を行いました。28名が参加しました!小さな子どももおたまじゅくを探して駆け回りました。収穫したツクシを早速、佃煮で美味しく食べた方もいたようです!?

いつも汗を流し草刈りをするボランティアのみなさんと、げんだぼの森が目指す姿を改めて共有しました。また初めてこの活動に参加される方もおり、楽しくげんだぼの森を利用する活動の機会が増えるといいなあと願っています!



#### 協賛企業

